

つどう

まなぶ

むすぶ

福井市の公民館

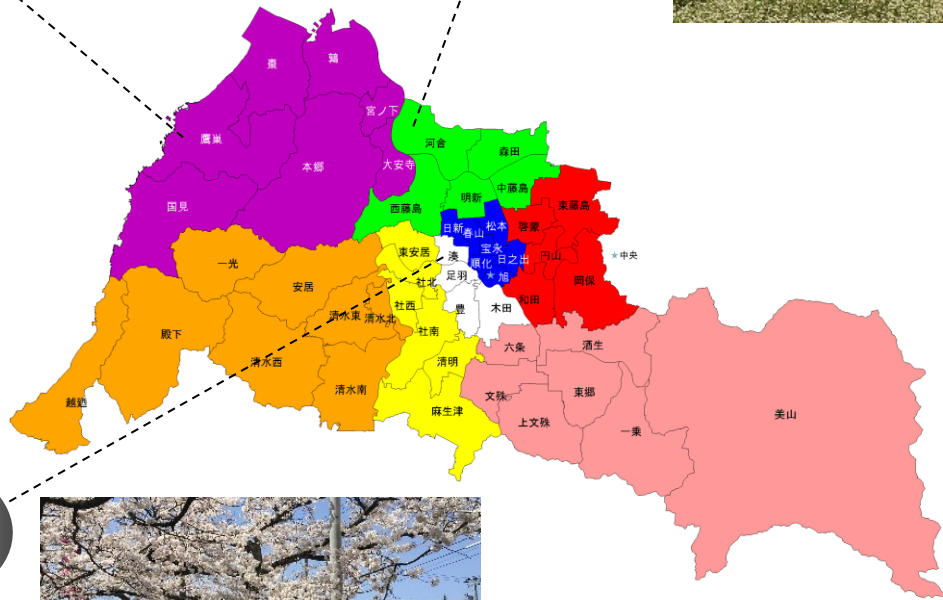
鷹巣
公民館



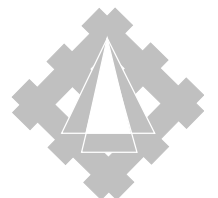
河合
公民館



湊
公民館



第 16 号 (最終)



福井市公民館一覽

ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	
あたご	1	木田	木田1丁目1401	36-0042	6号	光	28	安居	本堂町7-4	37-1234	11号	
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344	12号		29	一光	下一光町6-5	37-0168	5号	
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041	7号		30	殿下	風尾町1-13	97-2377	14号	
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032	最終号		31	越廼	菜崎町1-68	89-2182	7号	
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560	12号	
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036	14号		33	清水東	三留町14-11-1	98-4510	8号	
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458	11号		34	清水南	風巻町21-17	98-4590	13号	
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085	8号		35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477	15号	
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040	9号		川	36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364	15号			37	国見	鮎川町133-1-3	88-2004	4号
11	日新	文京5丁目1-8	21-7225	3号	38			鶉	砂子坂町5-58	83-0433	13号	
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	38-0043	10号	39		棗	石橋町4-14	85-1495	10号	
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566	4号	40		鷹巣	蓑町14-7	86-1001	最終号	
	14	社南	種池2丁目206	35-9559	13号	41		本郷	荒谷町19-55	83-0582	6号	
	15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号	42		宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150	11号	
	16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号	足	43	酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503	9号	
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383	6号		44	一乗	西新町1-31	43-2001	12号	
あずま	18	和田	御幸4丁目9-20	22-0038	8号		45	上文殊	北山町34-1	41-0516	3号	
	19	円山	北今泉町7-12	54-0048	5号		46	文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号	
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046	10号		47	六条	天王町43-4	41-1001	14号	
	21	岡保	河水町10-13	54-2519	7号		48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	5号	
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039	15号	49	美山	美山町2-12	90-7111	15号		
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040	9号	羽	50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号	
	24	中藤島	高木町64-11-4	54-0045	12号							
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001	最終号							
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号							
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880	4号							

第16号(最終)掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
湊公民館	〒910-0028 福井市学園1丁目4-8	(0776) 22-0032	minato-k@mx1.fctv.ne.jp
河合公民館	〒910-0102 福井市川合鷺塚町9-18	(0776) 55-0001	kawai-k@mx1.fctv.ne.jp
鷹巣公民館	〒910-3381 福井市蓑町14-7	(0776) 86-1001	takasu-k@mx1.fctv.ne.jp

《福井市の公民館に思う》



魅力いっぱいの福井を全国へ

前中央公民館館長 平馬 吉隆

隔年で日本総合研究所が実施している『都道府県幸福度ランキング』において、福井県は2014年以來3回連続で総合1位になっています。主な要因として、学校・社会・雇用領域において1位を維持していることが挙げられます。このうち社会領域では、一人当たりの社会教育費と千人当たりの社会教育学級・講座数が上位を維持しています。学校領域がトップレベルだということがことさら強調されていますが、実は社会領域もトップレベルなのです。このことから、福井県は子どもから大人まで学ぶことのできる環境が整っているといえます。

また、東洋経済新報社が実施している『住みよさランキング2019』では812市区の中で福井市は4位となり、都道府県庁所在地に絞ると1位になっています。これは「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」の4つの視点から算出したものです。ところが、ブランド総合研究所が実施している『都道府県魅力度ランキング2019』では、順位は徐々に上がっているものの37位でした。これらの順位に一喜一憂するのではないですが、幸福度や住みよさに比べて魅力度の低さが目立っています。認知度や観光意欲度、産品購入意欲度の数値が低いことが主な要因のようです。貴重な名所旧跡、すばらしい自然、おいしい食べ物、強い自治意識など福井のいいところはたくさんありますが、残念ながら知られていないということです。

さて、中央公民館では、2016年から従来の社会教育事業を『ふくい中央みらいカレッジ』として整理し、各講座に従来の福井のよさや福井らしさに加え、新たな取組事例の紹介を取り入れるようにしました。また、地区公民館の協力により地区の特色ある事業を紹介する内容も組み入れています。そして、受講してもらった方々に福井の魅力等を再認識してもらうだけでなく、これらを広めるのに協力してもらうために、2017年から『福井のよさを広めよう！広めたいポイント帳』を始めました。

福井市には中央公民館と49の地区公民館があり、地区公民館はほぼ小学校区ごとに置かれ全国では珍しい半官半民という方式で運営されています。しかし、公民館運営をNPO法人や指定管理者に委託し収益を考慮する自治体が増え、あるいは社会教育法でいう公民館を取りやめ、いわゆるコミュニティセンターに移行する自治体も増えています。公民館が単なる貸館的施設になってきているからかもしれません。公民館の本来の目的は、地域住民が主体的に地域の課題に取り組むことができるよう働きかけることです。つまり、公民館は地域づくりの中核施設という役割をもっています。これを維持し続けているのが福井市の公民館です。だから、住民の地域を大切にしている意識がとても高いと思います。この立役者が公民館職員であり地域の社会教育関係者です。目には見えませんが、このことも人的財産という福井市の大きな魅力だと思います。

最後に、福井には福井の魅力として大いに自慢できることがたくさんあります。これらが積極的に発信され、より誇れる福井になり、幸せであることを実感できるようになることを望んでいます。

歴史と景観を生かしたまちづくり

— であい ふれあい まなびあい —

湊公民館

1 湊地区の概要

福井市中心市街地の西部に位置する湊地区は、交通の便がよく4つの区で構成され、閑静な住宅街が広がっている。中心街に近いことからアパートやマンションが多く、大学生や単身者、外国人居住者が多いことも特徴である。地区を東西にさくら通りが貫き、足羽川沿いには桜の開花時期に「桜のトンネル」として有名になった照手・木町さくら並木通りがあり、自然環境にも恵まれた地区である。

江戸時代には、足羽川沿いに船着き場の河戸(こうど)があり、米や塩、木材等の取引で繁栄した。「湊」の地区名の由来であり、今も「塩町」「木町」等の自治会名が残っている。また、江戸末期の歌人、橘曙覧が住んでいた「藁屋(わらや)」跡や福井藩家老、松平主馬(しゅめ)の別邸「三秀園」跡、坂本龍馬と三岡八郎(後の由利公正)が会談した旅館「菫(たばこ)屋」跡など数多くの史跡がある。平成21年には、当時の三秀プール前の足羽川堤防に「福井藩十二ヵ月年中行事絵巻」のレリーフが設置され、歴史のロマンを見ることができる。

令和2年2月1日現在、人口は8,875人、世帯数は4,262戸である。

2 桜並木を生かした祭り

(1) 春の風物詩「越前湊さくら祭」

足羽川沿いの福井市照手1～3丁目の市道(照手・木町さくら並木通り)脇に植えられた桜の並木は地域の誇りである。春には「桜のトンネル」がお目見えし、訪れる人の目を奪う。「この名所を生かして湊地区ならではのイベントを」と、平成14年に始まった「越前湊さくら祭」は、今ではすっかり春の風物詩となり、毎シーズン地区内外の大勢の人でにぎわう。

開花時期に合わせて毎年4月に開かれる祭りは、企画・運営に協力する実行委員を募集し、各種団体と地域住民が協力し合い、地域全体で積極的な活動を行って盛り上げる。さくら並木通りに湊地区の各種団体や

飲食業者ら約20の露店が出店する「さくら楽市」が並び、メインステージでは、歌や音楽の演奏、ダンスなどが披露される。

平成最後となる「第17回越前湊さくら祭」は、「平成(とき)が終わり、また『たのしみ』がはじまる——」をテーマに4月6日(土)に開催し、昨年完成した「越前湊さくら祭テーマソング」が発表された。また、「福井藩十二ヵ月年中行事絵巻」の前の歩道に、畳2畳分の棧敷席を7カ所設け、来場者が桜や十二絵巻を見ながらゆっくりと祭りを楽しめるようにした。

この祭りで、地区民の絆を強め、「湊の宝」を発信していきたい。また、付近の史跡を通じて地区の歴史についても知ってもらいたいと考えている。



(2) 桜並木を彩る「ライトアップ事業」

越前湊さくら祭の一環として、3月末から4月上旬の約2週間、さくら並木通りに設置された66基の行燈が午後6時から10時まで点灯され、夜桜を彩る。以前は、ぼんぼりを桜の枝に取り付けてライトアップしていたが、枝を守るために行燈に変えた。そこで、38個のぼんぼりを使って、かつて足羽川の船着き場に集まった船の帆をイメージして

「みなと竿燈(かんとう)」を作った。「みなと竿燈」は、湊地区のシンボルとして、同じ期間中、春の夜空を幻想的に照らす。



このライトアップは、平成28年度に福井市景観賞の風景部門賞を受賞した。

3 学校・地域と公民館が連携した湊フェスティバル

学校と地域、公民館の融合を図るため、平成13年に湊公民館祭り(湊地区文化祭)と湊小学校PTAバザーを共催にして「湊フェスティバル」と名付けた。平成20年には湊ふれあい福祉まつりも統合し、湊公民館主催、湊地区自治会連合会連絡協議会・湊地区社会福祉協議会・湊小学校PTA共催で、隣接している地の利を生かし、公民館と湊小学校の二会場を使って開催している。

公民館会場では、湊公民館で活動している自主グループの発表や作品展示、また、社会福祉協議会等のブースが設けられる。小学校会場には、子ども会育成会や児童館・児童クラブ等の体験コーナー、小学生の作品やスポーツ少年団等の活動紹介の展示がある。体育館ステージでは、地区内の幼稚園や保育園・こども園の園児、光陽中学校吹奏楽部等が演奏や合唱、踊り等を披露する。湊小学校PTAによるバザーも行われる。



昨年度から、湊小学校グラウンドに両会場を結ぶ「MINATOロード」を設けて両会場の行き来をやすくし、参加者や来場者の交流を一層図ることができるよう工夫した。子どもからお年寄りまで大勢の人でにぎわい、楽しいひと時を過ごしている。

4 地区にゆかりのある橘曙覧の顕彰事業

(1) 橘曙覧没後150年記念祭

平成30年は、幕末福井の歌人で国学者の橘曙覧が死去してから150年の節目だった。湊地区には曙覧が20年間過ごし、終焉の地である藁屋跡(照手2丁目)がある。跡地には、妻が水くみの苦勞から解放されたのを喜び、歌を詠んだ井戸「袖干(そでひ)の井」が現存する。そこで、湊地区民による手作りの「橘曙覧没後150年記念祭」を8月末の2日間にわたり開催し、曙覧を偲ぶとともに功績をいかに伝えていくかを検討した。

1日目は藁屋跡において、福井市立郷土歴史博物館長で氣比神社(越前町)の宮司による神事が厳かに行われた。2日目は、湊公民館で記念イベントが開かれ、湊地区在住で福井市歴史ボランティア「語り部」相談役の記念講演で幕を開け、続いて福井市立郷土歴史博物館長と橘曙覧記念文学館の学芸員、橘曙覧全国子孫会

事務局の3氏が「曙覧をいかに伝えるか」をテーマに意見交換を行った。



また、記念事業の一環として、小学生とその保護者対象の「あけみウォークラリー」や湊公民館郷土学習「橘曙覧史跡めぐり～曙覧の生涯や歌を学ぶ～」を実施し、曙覧のゆかりの地や関連施設を巡った。

(2) みなと独楽吟の募集

平成30年の記念事業では、曙覧が詠んだ「楽しみは」で始まり「とき」で終わる短歌「独楽吟」にちなみ、「みなと独楽吟コンクール」を実施した。今年度も小学生・中学生・一般の部に分けて「みなと独楽吟」を募集した。部門ごとに賞を決め、入賞者を湊フェスティバルの開会式典で表彰し、作品を展示した。橘曙覧の業績を顕彰し後世に伝えていくために、今後も継続していく予定である。



5 終わりに

越前湊さくら祭を通して、若い人たちが地域活動に参画している。平成28年に、地区内外の40、50歳代の約50人が参加して湊まちづくり協議会が設立され、さくら祭の企画、運営に携わっている。行燈によるライトアップや「みなと竿燈」も同協議会のアイデアで実現した。従来のさくら祭とは様変わりしたことから、各種団体長らとの間で企画段階から活発な話し合いが行われた。そして、お互いに知恵を出し合いながら、より進化した祭が行われている。祭に訪れた人たちが喜んでくれる姿を見ると、苦勞も吹き飛び、次へのステップにつながる。

さくら祭や湊フェスティバルなどの事業を通し、地域の絆を強め、情報発信していきたい。その中から住みよいまちづくりが実現していくのと思う。

市内でも最早防災会を結成して防災意識を高め、学童安全見守りプロジェクトの活動が知事表彰される等、安全・安心な地域づくりにも努めている湊地区。今後も、地区への愛着を深め、連帯感を高める活動を展開していただきたいと思っています。

みんなが楽しめるまちと人づくり

— 公民館の可能性は館の活用を広げること —

河合公民館

1 河合地区の概要

福井市の北部、九頭竜川と日野川の合流地点にある河合地区は、肥沃な田園地帯で古くから農業が盛んである。明治以降は、九頭竜川の河川改修や堤防整備により洪水の発生もなくなった。また昭和 50 年代には地区東部に団地が造成され、現在は旧地区と新地区が混在する、安全・安心で住みよい地区となっている。地区内には、県工業技術センターや繊維関係の工場、国の登録有形文化財になっているえちぜん鉄道鷺塚針原駅の駅舎がある。

旧地区では3世代同居が多いとはいえ、近年、高齢世帯や独居世帯が増えたこともあり、地区の活力の低下や絆の希薄化などの課題が見られるようになってきた。このような現状を踏まえ、地区では特色を活かした様々な活動を行い活性化に努めてきた。公民館も教育事業を中核に「学び・集う」ことで住民が豊かな人生を送る河合地区を目指し、共に絆作りを進めてきた。

令和2年2月1日現在、人口は3,860人、世帯数は1,326戸である。

2 地域課題の解決を通し、楽しみながら

やる気と活気のある地区に

河合地区は団結力が強く、九頭竜風あげまつりや蕎麦まつりを行う「河合ニコニコ王国フェスタ」をはじめ各種団体の催事が盛んに行われ、地区の活性化に大きく貢献してきた。しかし、年数を重ねる中、費用がかさむこと、実行委員の負担が大きいこと、役員の高齢化などの課題が出てくるようになった。

そこで平成 28 年に河合地区主行事検討委員会を立ち上げ、行事の再構築を図ることにした。そこでは、大きな催事をまとめて1日で行い、それぞれの相乗効果を高めつつ、かつ負担が少なく楽しい交流の場や発表の場を創ることを目指した。

改革の一つは文化祭である。これまでPTAのバザーや社協のふれあい広場と一緒に、小学校で10月に開催していたが、会場設営や準備など負担が大きかった。

そこで、PTAバザーとふれあい祭りを9月の河合ニコニコ王国フェスタの日に移し、文化祭を小型化して独立させ、公民館で10月に行うこととした。

これにより準備物の大規模な移動がなくなり、またニコニコ王国フェスタの運営に年齢の若いPTAの方が加わることもなり、スタッフの負担軽減と若返りを図ることができた。

(1) 自主グループの発表を「ほっとコンサート」で

河合公民館の自主グループは音楽が多く、文化祭の発表は音楽中心となる。そこで、講座生が意欲的に発表でき、地域の文化的な楽しみの



【コカリナの演奏】

場も増えるようにと、自主グループの発表を文化部門事業「ほっとコンサート」と名称を変え、年10回程度に分散して行うこととした。

この「ほっとコンサート」は、前売りチケット制である。会場の公民館をライブ会場のようにセットし、当日はお茶やお菓子を準備した。出演者たちは、楽しみながら企画・運営に参画し、自分たちでも参加者を募った。そして、当日はちょっとおしゃれをし、コンサートの主役として出演した。

今では、地区だけでなく地区外からの参加も増え、みんなで楽しむこのコンサートは、地区の自慢の一つになりつつある。

(2) 公民館で“本物”を楽しもう！

公民館をさらにみんなが集い・楽しむ場にすることを目指し、プロのコンサートを開催した。名称は「ほっとコンサート」のままだが、公民館ホールをコンサート会場のように整え、本物の雰囲気近づけた。これにはたくさんの方が集まった。令和元年はジャズコンサートで、「今宵、河合公民館はニューオリンズ・ジ



ジャズバー気分」をキャッチコピーに、3人のプロ(県内在住)の演奏を聴き、「お茶バー」で楽しんだ。主事もバーテンダーの服装で会場を盛り上げた。

上記(1)(2)のコンサートには、音響や照明などで公民館の自主グループ「河合音響倶楽



【ニューオリンズ・ジャズバー気分】

部」が活躍し、本場の雰囲気を出した。また、参加者・出演者には当日の受付・後片付けを依頼するなどして、役割を分担した。

このような企画を通して、参加者や講座生は、身近な公民館で本物に近い文化的なひとときを味わい、交流を深め合うことができた。また、公民館を多様な方法でグレードアップして活用できることが分かった。

3 河合に集まって楽しもう！

地区の活性化にとって、大きな負担にならずに、多様な世代の人が集まりたい場を創ることが重要だと考え、多くの方と知恵を出し合った。

(1)「Iら♥ぶ 河合」みんな集まれ！うらのKAWAIへ

市民憲章推進協議会河合支部等が中心になり、「河合をいろんな人に知ってもらおう！愛してもらおう！そして楽しい“かわい”にしよう！」をテーマに、鷲塚針原駅周辺で「いっぺん寄ってんで寝まって広場」を開催した。公民館は参加者募集のちらし作成と場所割り、参加者や出展者が準備・後始末等を行うなどして、特定の人の負担にならないよう工夫した。

当日は、ニコニコフリーマーケット、ライブコンサート、地区で採れた野菜の市場などで賑わった。ライブは初心者大歓迎である。また、自主防災会主催のロケットストーブでの飯盒炊飯体験や、公民館教育事業の蕎麦同好会のおろし蕎麦など、地区事業や公民館講座の成果も公開した。

この日は駅前に人が途切れることなく集まり、思い思いに表現し合い、集いを楽しむ1日となった。また、えちぜん鉄道から中吊り広告やちらしの配布などの協力を得て、河合地区



【いっぺん寄ってんで寝まって広場】

を他地区に発信する機会になった。

このイベントの趣旨は自分たちで考え作り上げることだが、力を合わせれば負担にならず、また少ない経費でいろいろなことができ、みんなが楽しめることも、開催を通して共有できた。

(2)年代、性別を問わず多くの方の参加を

会場が公民館に変更になった文化祭を「ハロウィンで文化祭！」とし、10月末に開催することとした。子どもたちや若い方にもたくさん参加してもらいたいとの思いからである。



当日は、自主グループの発表や地区から募集した展示、お茶や体操の体験コーナー、お菓子のつかみ取りなどの他、自主防災会と共催した気象に関する講演会「天気予報のミカタ」や、「河合音楽村」の発表などを行った。また、公民館教育事業「男の料理教室ビストロ河合」特製の「ハロウィン・カレー・ランチ」もあり、落ち着いた中で多世代の男・女が、「発表&ハロウィンパーティー」を満喫した。

夏休みには、子どもたちが企画したお化け屋敷や流しそうめんを開催し、共に活動するよさを感じ合った。



【お化け屋敷を企画した子どもたち】

4 終わりに

「田園地帯に音を響かせたい！そして音楽を通して笑顔が溢れる地区にしたい！」という思いから始めた「ほっとコンサート」は5年目を迎えた。住民の間にも少しずつ浸透し、「自ら舞台に立ちたい！このグループを呼びたい！」という声も上がるようになってきた。また、河合を地区内外の多くの人にも知ってもらいたいとの思いから始めた「Iら♥ぶ 河合」にも、参加希望の声が多く上がるようになり手応えを感じている。

今後も年代と性別を問わない「音楽」というツールで人が繋がり、住民の声が響き合う明るい地域となるよう努めていきたい。

「みんなのキャンパス」として、集い・学び合っている河合公民館。地区の要として地域課題を解決しつつ、新しいアイデアで公民館の活用を工夫し、地区の活性化に努めておられます。ますますの発展を祈念します。

豊かな自然と伝承芸能がいきづくまち

鷹巣公民館

1 鷹巣地区の概要

鷹巣地区は、福井市中心部から約25km西方に位置している。砂浜2kmと七浦5kmの海岸段丘が続き、岩礁が散在する海岸は四季折々の景観を楽しむことができる。東西7.5km、南北5km、面積19.33km²で、地区の約87%が山地となっている。地区で最も高い高須山は標高が438mあり山頂には鷹巣山城址がある。山頂からの眺望はすばらしく、地元の方によって登山道が整備され多くの人々に親しまれている。また、沿岸部一帯は越前加賀国定公園に指定されており、北陸で有数の広さと透明度を誇る鷹巣海水浴場がある。

免鳥地係の古墳群には県内で最大級の免鳥長山古墳(3方向にテラス状の造り出しを持つ帆立貝式古墳・全長90m)があり、平成19年から国指定史跡として保存・管理されている。また、地区内には、国の重要無形民俗文化財に指定されている糸崎寺の仏舞(ほとけまい)、市の無形民俗文化財に指定されている免鳥夜網節(よあみぶし)、「ふくいのおいしい水」に認定されている湧水が出る水分(すいぶん)神社の奉納相撲、蓑浦太鼓など、多くの伝承芸能がある。

昭和55年4月に竣工した公民館は、老朽化により平成30年5月に移転新築が行われ、地区民の新たな憩いの場、地域活動の拠点となっている。

令和2年2月1日現在、人口は1,798人、世帯数は670戸である。

2 地域で育み、地域を愛する子どもたち

(1) ボランティアで海鮮鍋をGet!

家庭教育事業の一つとして平成14年度から17年間継続している。例年10月末の土曜日に、地元の中学生たちが地区内の施設やお店などに出向き、ボランティア活動を行う。内容は、漁港でのごみ拾い、公衆トイレの清掃、温泉の風呂場掃除、醤油屋さんのビン洗い、老人施設での清掃やお年寄りの話し相手など様々である。作業が終わると各施設の方から活動のお礼にと、鍋の材料となる魚介類や野菜、味噌や醤油などをいた

だき、それらを公民館に持ち帰り、みんなで大釜の海鮮鍋を作る。そして、日頃お世話になっている地域コーディネーターや老人クラブの方々などを招いて会食し、交流を深めている。昨年からは生徒たちが自ら実行委員会を立ち上げて企画や当日の進行、会場準備なども行うようになった。

これらの活動を通して、中学生たちが働くことの大切さや食の有り難さを実感し、地域への愛着を深めてくれることを願っている。



(2) 鷹巣夏休み子どもクラブ

子どもたちの自主性・社会性、異年齢での思いやりや連帯感を育むことを目的として、公民館と地区子育て支援委員会との共催で始められたこの事業は、今年で12回目となる。

夏休み期間中の水・木曜日、計6~7回開催し、地元の園児・小学生、約40~50名の参加がある。朝の会→学習タイム→体験教室→昼食という1日の流れで、6年生がリーダーとなって縦割り活動を行う。

体験教室では、地区のボランティアや保護者が協力して指導にあたり、料理教室、防災教室、読み聞かせ、たかすカルタ大会、オセロ大会など様々な活動を行い、世代間の交流の場としても地域に根付いている。



(3) 鷹巣地区PTCAの取組

PTCAとは、PTAに地域住民(Community)が加わった「親と教師と地区住民の会」を意味し、家庭・学校・地域が連携して子どもたちを育てていこうという「共育」の理念が込められている。

平成21年度に発足して以来、それまで地区の各団体が行っていた子どもへの教育支援事業を組織化し、情報や目的を共有して連携が図られるようになった。

事業はPTAの活動が中心で、全体会や運営委員会を開催して内容や日程調整などを行いながら進めている。

また、学校や公民館には、PTCAの指針となる「たかすっ子育ち3か条」が掲げられ、子どもや地域住民の意識高揚を図っている。

- ① たすけ合い いつでも声を掛け合います
- ② かんしゃの心で「ありがとう」を言います
- ③ すすんで地域の行事に参加します

3 守り伝える伝承芸能と広がる地域交流の輪

(1) 秋の文化祭 ～ 伝承芸能発表の場 ～

地区には多くの伝承芸能があり、地元の人や保存会によって守り伝えられているが、地区夏まつりや秋の文化祭は、それらを発表する場としても大切な行事となっている。

秋の文化祭は毎年11月初めに開催され、模擬店や作品展示などの他、いろいろな芸能の発表が行われる。免鳥夜網節をベースに編曲した中学生によるヨサコイイッチョライ、正調夜網節の唄と踊り、蓑浦太鼓、小学生全員による合唱など、地区の人々が一体となって大いに盛り上がる1日である。



(2) ひまわりCafe ～ 地区民交流のサロン ～

少子高齢化が進む中、気軽に集まって交流できる場が欲しいという地区民の思いに応じて、平成26年に公民館の自主講座の一つとしてスタートした。

毎月第2金曜日の午後開催し、地区に住んでいる人なら誰でも気軽に参加することができ、いろいろな体験活動を通して交流を深めている。現在は高齢者を中心に20名ほどが集まり、健康体操、小物作り、お菓子作り、幼稚園児との交流、館外研修など、様々な活動を楽しんでいる。



4 終わりに

近年、少子高齢化が加速度的に進行する中であって、青少年・子育て世代の減少と老人世帯の増加が顕著になってきている。併せて、かつて形成されていた人間関係が希薄化し、地域活動への関心がややもすると薄くなる傾向にある。

このような中、従来にも増して住みよい豊かな地域にするために地域の課題をより鮮明にとらえ、お互いに力を合わせて事業を推し進める土壌づくりが大切である。地区内には多種多様の団体があり、それらの事業が個々に行われるのではなく、公民館を中心として各団体が連携・協働して行わなければならない。今後とも新しい担い手を掘り起こしながら地域の海岸等の優れた自然景観と豊かな歴史・文化遺産を受け継ぎ、さらに次世代に伝えていくために豊かで住みたくさるさとづくりを目指していきたい。

未来の鷹巣地区を担う子どもたちをみんなで育てていこう、美しい自然と数々の伝承芸能をしっかりと守り伝えていこうという地区民の熱い思いが、様々な取組の中から伝わってきます。少子高齢化が進む中ではありますが、公民館を拠点として今後も鷹巣地区が大いに活性化し盛り上がっていくことをお祈りいたします。

【資料】

環境講座 ～地区館との連携～

中央公民館の「環境講座」では、地区館との連携を深め、各地で取り組まれている環境についての実践を広く発信・紹介することをねらいとして、平成26年度より、市内各地区の実践を発表していただく機会を設定している。以下にその概要を紹介する。

〈平成26年度〉10月25日

○里地・里山の地域資源を生かした取組（安居地区）

安居の里を守る会会長 重森 正雄 氏

○地域力で取り組む環境学習とは（東郷地区）

ふくふくセミナー委員長 堀江 洋子 氏



環境講座として初の事例発表とパネルディスカッションであった。地域資源の保全活動や整備活動（安居地区）、身近なりサイクル活動（東郷地区）を通して地域コミュニティを活性化させるという事例発表のあと、中央公民館館長がコーディネーターとなってパネルディスカッションが行われた。

それぞれの取組内容が、ディスカッションの中でより具体的になり、他地区での今後の活動にとって大変参考になった。質問等も多くあり、充実した講座となったため、これからの環境講座の計画立案に役立つものとなった。

〈平成28年度〉7月16日

○地区でのごみ処理活動の取組（岡保地区）

岡保公民館 環境美化推進委員会

岡保地区の各町内から選ばれたメンバーによって組織された環境美化委員会が、年間を通してごみの分別の仕方や紛らわしいゴミの捨て方などを地区民に周知する活動を行っている。当日は、岡保公民館を会場にして、メンバーが時々ユーモアあふれる寸劇を入れるなどの工夫を凝らして発表が行われた。

ごみに関する現状を踏まえて、地域で地道に環境美化に取り組むすばらしい実践発表であった。



〈平成29年度〉8月26日

○24年前と今、生業の内容から環境を考える（本郷地区）

あぐりぱーく本郷

杉本 英夫 氏

○なせばなるか？（社西地区）

社西ふるさと創り協議会会長

山下 征夫 氏



杉本氏は、本郷地区の山間部で、常に環境保全・自然の価値を意識しつつ、稲作、木酢液作り、しいたけ栽培、養蚕など、様々な取組を行っている。また、社西地区の山下氏は、地区を流れる狐川の環境整備の取組、社西小のピオトープ作り、県内のホテルの生息状況調査など、環境保全に関わる多くの実践を行っている。

両者の熱い実践発表に、参加者の皆さんも大きな感銘と刺激を受け、自然や環境を守ることの大切さを再認識することができた。

〈平成30年度〉10月20日

○荒川水質調査について（旭地区）

旭公民館主事

竹内きみえ 氏

○資源循環社会の取組・ゆめファーム（清明地区）

ゆめファーム会長

宇山 繁幸 氏

地区の様々な団体が連携して取り組んでいる旭地区の「荒川水質調査」は、平成30年度で30回目となる。これまでの地道な取組は、環境・地域連携・少年活動など様々な視点で多方面から高く評価されている。また、清明地区ゆめファームの、生ごみを減らす取組も、地域の理解と協力が不可欠なもので、他地区にとっても大きな刺激となった。

両者の発表から、地道な取組を継続していくことの大切さを改めて感じることができた。



〈令和元年度〉8月10日

○裏山があってウラヤマシイまちづくり（清水北地区）

清水北地区里山の会

松井 洋輔 氏

○日新地区の環境美化活動 ～20年間の底喰川への取組～（日新地区）

日新地区まちづくり環境部会

高橋 定信 氏



清水北地区にある小高い里山で、様々な活動を展開する「里山の会」は、山の環境に目を向けつつ自然に親しみ、世代を超えた人々の交流やまちづくりを進めている。また、日新地区では、地元底喰川の清掃や植栽活動など、環境保全活動を20年間継続している。

両者共に、地元への愛や人々の強い絆があってこそ継続できるものであり、参加者は大きな感銘を受けていた。

「福井市の公民館」の発刊を終えて

ここに16冊の宝物があります。「福井市の公民館」全16巻です。平成27年（2015年）2月に創刊号を発刊し、5年をかけて50館全てを掲載することができました。

創刊号の巻頭言で、柳澤昌一 中央公民館運営審議会委員長は、「歩いて集える身近な地域に、個々の枠を超えて活動と活動を結ぶことに心をくばり、その環を持続的に育もうとする人たちがいる。その結び培う営みの拠点が目に見える形である。そうした働きと拠点のある地域と、個別の活動しかない地域。私たち福井市の先人は前者を選び、つながりを育む拠点として小学校区に公民館を築いてきました」と書かれています。これは、福井市の先人が民主主義教育の原点を深く理解していたことの証だと考えています。

昭和21年（1946年）に、旧文部省は「公民館の設置運営について」を通達しました。その考え方は、公民館は単なる貸館的な施設でなく地域住民の日常生活に密着して課題解決を図るための総合的な教育施設であること、そして、公民館の運営は地域の人々の生活に根ざして地域住民が主人公となって行われるべきこと、公民館は住民自治や住民主体の機能と性格をもった施設であること、というものでした。

福井市の人々は、上記の考え方を十二分に理解し、地域の特性を活かす取組を創り、長年にわたり粘り強く改善に努めてきました。その拠点は、小学校区ごとにおかれた公民館でした。集い合う人は、小さいところからの仲間でした。新しく地域に入られた方にも寛容でした。福井市の市民一人一人が、誠実にかつ着実に「うらがまちづくり」に取り組んだ成果が、「福井市の公民館」に表されています。どの取組にも働いた人の汗が輝いています。

今後、この宝物の発信と活用に努めていきたいと考えています。そして、令和5年（2023年）、北陸新幹線が東京と直結したときには、全国の人々から「うらがまちに誇りと愛着をもつ福井市」を訪れてみたいと思われるようになることを願っています。

最後になりましたが、これまで快く取材に応じ貴重な資料を提供していただきました福井市の公民館の皆様をはじめ、長年にわたり発刊のためにご尽力いただいた関係者各位に心から感謝申し上げます。

令和2年3月

福井市中央公民館
館長 井上 政夫

「福井市の公民館」 ～つどう まなぶ むすぶ～

創刊号からのバックナンバーを福井市中央公民館ホームページでご覧いただけます。

<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k>



中央公民館
ホームページ
QRコード



福井市の花
あじさい

公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲

快活に ♩ = 104

一. へこのは いわの は るに あたらしく
二. こころの は な の に おやか
三. は たら く も の の や すら か に

きょう どを おこす よろこびも こう みんな かの
きょう どに おひらく ゆたかのしきも こう みんな かの
きょう どに いきる たのしきも

つつどいからとときま けはあうをこむろになうごつとやくかし
つつどいかららとときま けはあうをこむろになうごつとやくかし

いに じぶあ やんす のの あいさすをみら たたくたみだてよろう

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

一. 平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう

二. 心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみどろう

三. 働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひどときに
明日への力 そだてよう

公民館の歌 **自由の朝** について

昭和21年(1946年)7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受けて9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省(当時)、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

〈第16号 編集委員〉

中央公民館運営審議会委員 鋸屋恵美子・中嶋貴美江
生涯学習課 佐竹 昭博
社会教育指導員 嶋田 直美・田中 政広
河合 恭江
中央公民館 井上 政夫・前田誠一郎
塩崎めぐみ・半田 実紀

福井市の公民館

(監修) 福井市生涯学習課
(発行) 福井市中央公民館 令和2年3月
〒910-0858
福井市手寄1丁目4-1
TEL 0776-20-5459
FAX 0776-20-1538
E-mail : cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp
http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k